国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』 請求記号
ガラス使用

源氏 ホハ

共五十四巻

渡利邑
榊浦氏

2011.26

中宮のおまへは桜の花の色さへ匂ひ合ひたるに
年ごろもとどこほりなくいとなみつゝ
よろづのことをおもひのまゝにとゆひまをかくれ
なき御花の枝さしをかくさゝゆゑ春のひかりも
ものつゝましくおもふとうくやうしたてまつるを
聖皇の御をみにはまこの心もすゝんです
たうにはりろくんまうくがれくやうなりはゆゑ桜
のあるひよりはしりはしりはなをひよりをんをうず
まきとりるはなはさくはる春のはれまへの御ぞのう
ちゝよりはきゝんくはゝ又ひきうへしはしりはけさ
をのはつをさ海すゝしもあまをを山藤につけてをを

ぬしなどはかうひなるまもりのまもりは
月ハ故藤坊の正忌月なれば（故ノ字思トセ衣ノ用）ひるとなくおこない
ばうあくにくまうの花色まさるころ式部丞
らんまうは世にかれぬのとうしうもはるくを
うゝのいろのけしきをみるにいかうかぐはしか
りくをいやさらもおひしまねんふうれるを
やはひさしのかくをまきて（中ニハ）まけゝのおのゑのと
みぐにふまくにはむまひひとりゆくはた
つまにたちのの袖と紙のをすもうぼきを
つまけまをはくまくはうのもみぢずみまより
ていくひくはけゝまいはうしなにまうはは

うゝろめゝくいつとなくおのうゑをはるば
くみおうのはぢおくゝとなをせんざいはくろう安紗ひりられ
つゝをうくゝみえいでくりてあこ義ゝたか
をまちもゝる風のうゝえなちれうゑりをもと
まうまゝ煙ちゝをとすゝゝりちうてみのう（はゝノ）
はゝくゝをひのゑの正はくゝはたゝにかねの（原）
ゑまいつはゝくひんゝのまゝとゝくこはうぐ
のあとゝうはゝのうゝをなかんもなくみ
つまゝくはゝのあまくゝみゑまをゝちとまを
てをゝをせぐ見はは厨風もうせのゝうゝみえあ
まゝをゝゝゝこゝをせゝうゝみをとをゝのゝをはう

（中ニハノ）

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』 請求記号
ガラス使用

ひさしの松まつよぬのまくらの人のまくらもう
ゝずがるゝく文ゝるゝまゝ
てゝるのぬゝのゝうゝをゝ
ゝゝゝゝのゝゝゝゝ

なれば、海どもなるまでみうむつるまでゆきて、
あのつくどもの、ひんしのくうしを、映さるおちく
そしたにもあるふなれきをうろくそさちの
きあるとまいまろ亜にうちこそつくりてそのこ
のくるあめまいぐ汚くまいぐされたるあるハか
つくんとくこんの汚たるのわきそもりけるよい
まうまとのかのとの多恵の汚たるまーハ春なうまに汚る
文選風賦に風ふうきふ出たるをかるあ岩つへそなりけま
蹙石折ふりかの雨ひともとさしてかつくしをうま
味梢殺林々
又右注に
零陵山之
上に石燕在之

大雨風海狀
雷如真燕
晴ニテ如元云
三体詩に
石燕揚ニテ
晴ニテ赤雨

ふるあめはとくみふるのつりとの
なんとそとうくもーをさうひけくしかかねそく
ぐくりりのーにけうう三条の文よりけるを風
くくあるめしとんをのやつまをあるうか
ふふうん第りりつおうかこよをまくんね
くくりをのををもいまうをりてるうさこれ
亜くよをうをめまをひぐるくしさくまうくりり
うんとやーふへうをふるあやまくぐねおそて
のをてまうのうなりまーせうをうをまくまくこと
なんとぐよさのをくうあるれなくうれぐるを

うつさはぬ[illegible]ふ[illegible]べうるとあのあうひさ[illegible]
つと四人ふく[illegible]つ[illegible]くなく[illegible]ぬ[illegible]ふ[illegible]
みちを[illegible]へをみを[illegible]風[illegible]
ふ[illegible]て三条乃宮と六条院を
られのまの日とす[illegible]用乃[illegible]物いとなとよ[illegible]
すこ[illegible]給つ[illegible]日ら[illegible]
なとのいてはいる[illegible]
まつは六条院[illegible]
ふ[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

れく見ぬ所にはかもう命のまもすられぬとこそいふ
おがゆゆしそうまきもおりひもこうゐて
おそうさまとこそうしう思ひたぶるとく
に思ひつきどころなくおもはれ（こひわび）ぬ（はしたなく）
すゑありがうもの中のうかがうなし
ひよりうでひんのこの法華経（花九巻恵）
なりびのくらんあるとかやうれいを
そとはかゆれたるのほひなくとうまうと
思ひきりあるにんにんのやうなれすぎ
なきことをひらねさあるなんくとうおぶ（ナルシト）
ちうをうてはしくちうるうん食の祖（六巻ノ六）

と今すこしまのすがひまんうと思ひはく
あらぬのくるはをあるをめのてむ（ヨワリ名ハ）
にあるいの仏像はまをなれしらやとふ屋
あるなどくくやはのかをさらふうとひろくそ
あるたうえひちまうはよんをとおりうそおく
あるうふをけれひんの花九巻のまちなをも
人をくまふおがされうんとうおやろくまく
ほのくとすちうまうを（多帝）ふみちの祖ようさ海
面いとひやうふあるうのうえもをく
きふやしくうれしうをもてなふまうう
やうるのをの思ひくまうまうとをむいまを

いとうまきなれまりなりあるふるのうらさはの
うさはのみまひけるこの花の所のうさにまつまるく
色まさへもちこうして物シテシテ見るはけ
くきかてんめりてあるはくろくしてなんなり
ひをえてこれみのはたくうすかりあへまが
きくみうしとあるひはたまとうはけるはんれろ
うらんかをのつまくみるこせて山のまとも
もゆるひうしてうくとをとくはれかうらま
ひうはのうしよりまつしずひもうつうくのそて
をとをとをいうひなくやうの絵みをうつうの
まつうかういくなるかうまへうなりあれ香
きくくとうて色もいくくもこうきわるくまるうう
そこうのとなくなみくのはつれをくきのこひか
くてうちくちふるのへまんやゆのこをはくろ
まそはなるあもまるくはうこんけんやてはかはふ
なりなふまーすうんさきこはうしたてはは
もくうちるひはふみてはすへふもくをもぎ
なりまーうのはえはつまらかなくひはうんみ
ひくるうんとてとそうこすうしはくらひやしはあい
ひとをいとはうーをのはつをはをやうねどりのか
のうやうかやまさまがれまみの新のものはもむ
ふはるひなえはなくくひうなてきくはみ

うゝをはてゝ（保ノ）
たゝいてゝふさうのきゝ
ゝくさゝやひめのそゝ
ゐ（大ミヤ）
ゐ（大ミヤ）ゝうゝひめ
にはをてゝ後りゝふりの
ゝも給まゝゝ給へ（保ノニガ矣）
ゝ給へ（大ミヤノ）
給ゝ給ゝまゝやゝる給ゝ
内府
給ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
給ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
給ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
給

ぬぎ給へる御ぐしのうつくしさ
あさらかにのべたまへるあてやかさ
うちうちにもてなしうつくしうて
わうやうなりうぢ
ものまもりこうこうしうやうやうし
らぬぬぐれのをかなくなるすがたいとも
なくれいしうつくしげなるをみたてまつれば
に春うしを活なりなるしをんなでらにきう
されたりこあるときみをなへしよれうのあるなどやう
のうちさまうひとさまこまくはなんうつきてこ
おのこれまけるうりていろくしの様ことを
のてさ海うひおてこなるのいをうんきなる

ぞくとうとりくあるぞきりのまうひもあるうん
ぞみとけるみえくるをひ風いとうよおとくお
まちんおもうけのうちとれうひ見て活けを
ひよやといて思ひやりめてくひをさうをうき
てさらいぐうくけどやみひやうふうらをとうひ
てあうをいぐめへけよんくはけざやうまはしろさ
ぐよをあらもどみおさんへつをいるとぬ活ぬうの様内殿
なるまはなりに入うちなれ活をうあ春なし
ものやけうくをあるず活せううこけひせさ要
紙て夢和のをおいなるあをひされをまくく私物語也
くをのひやうふくらひ活ふあきにうさい

日本紀

みをひきわかれていつまでもあるべき
世にはあらじ（保ノ写本セシニ）
ふるさとの物思ひ出らん菊の
はつ霜（中書リ多ク引ネ〻来セ）
いつまでかしてらんべみをてがくるる
くるもしらぬやうにくたるまをまつをそ
なほ
なをもかはらぬまねぶくかはるあり
（中文ヨリノ）
天風をもかをりをかはべくるや
うくれなゐをいさなんなぐ
やしゆへまんべ（保ノ）
（中文）
（保ノ）
（中文ヘセ）
てやうくさいつまかはるまをなるまつるく
（中文）
（保ノ）
（成）
（保）
（保ノ）
（保）
（古）
（双）
（保）
（中文）
（中文文ヘセ）
（保ノ）
（保ノ）
（保ノ

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』 請求記号
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』 請求記号
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』　請求記号
ガラス使用

なごう山のあやまちもせざらんと祈るに
みゝ（山ニハヨシトリスレドモ）
ちくはのをしらもなくしぶやく
みぐれ（笑イ）ふるつゆ霧はるゝ
思ひいでゝ折るをだにわしぬ（ハスル）ゝ
うらはゆるやうなる色へうきぬ（山吹ノ秋ニハスル）
たちもとまらぬ（萃）ものうしろ
よきをたとへてくさ物なりたまへる（侯ノ）人
もゆくこゝいやこゝやうかたかたらひ
ゆゑ（侯ノ）ゆゑ（侯ノ）うらんまちぐさてぞ（侯ノ）ちらぬ人
映みる秋風のたゝずみをこれへしたまひぬ

（柏木ナトモ玉ニ姫君ノ心アレハヤ）
（山吹ハ玉ニトリスレドモ）
（山ニ玉ノ）
（まゝびり三ノ玉ノ山吹ヲ）

ゝ（ゝ言ノ）やうにつゝ玉ノ言ハ侯ノ言ハ侯ノ吟ミ人ノ名言ハ侯ノ
ぬ
ぬ
ぬ

のうと物のはやう又のにはなくうらさなひ
えちゝしはちゝ中ねのしたうのおまへのほど
きんざいのそうもとまるとやうにくゆらす
てんしまるかまーかをゝまんさきまうるべえ
はかうのなどのあてかるくのあんさあくなら
ものゝいろどものはもきよらなれいうやう入方
をあのうあをしたとゝすしとおりをほうるを
ありしまうをあのしろ月夜ゝゝしらむしてを
のるうろのいぐあへかいはあゝゝかりえをし
あちゝねるようやうまくきさせあるものるうえ
人のうてうやそのうのなどあゝの事とやのしゆて

紅ハリバカヘ

禁中

ゆ生アリ左ナキ方モハトフラヒ所ハ来ム空ナト（モ宮ニゴモル恨シ保ウケシト）
うりきくゝねるきあ心やもう
なゝひきめるをあひはくゝ
さいつのへつまるあるくるあ
ちうをあくはさいをはあう
はめ所とそのあ所のきとゝ
の井をはうまつらんと思へ
ひくるしうはいしうはう
をのゝはすらんとゝひあ
あよぎの風なふきつまだの
さるとかくくしくをあをう

上ニ非シワレニスベ

夕顔（ゆかほ）

モミナド（ホトトギス）

大弐

屋ヤ

女房達

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』　請求記号　　ガラス使用

くそれぬる物ゆゑ〳〵ぬひちるうれ〳〵
ぬけどのみをとひきてあをのはをろひちるみ
きんものゝうをもらさしとひとをはぢをぬ
ゝうらみてしらんのしをくまのへをすのうや
うをとゝぬをかいてひりとすをとれはそ
にのみのまをけをまをつあをのはをひ
ろあをゝらをゝそいやをはそくちいをれやうゝい
らゝをはよひゝをゝれ
ゝしりのみをくまをよまをゝをれくをひまを
を結ぶのうりしまくをのうをのうなんと思ふ
うのみはをゝをあをくゝをゝ山ゝをといまをあを

をあちの花とやゝををうんこゝをゝ丈をりを
をゝりて用をまをひをゝをひをくゝをあゝ
や思ひをそをらゝゝをんをゝをとをまのをそのを
みをゝをゝをうのゝをゝ丈をりをはゝをくく
ゝけをやゝをなゝゝをはををなを思ふゝまを
をもををゝくゝをゝををゝをを丈のをりをゝを
をを法人をををやゝまくををひゝををゝゝを
ををゝ人をなをゝをゝををゝををををゝをを
ひをゝゝくゝをもをゝゝをあをゝをゝをを
くをのゝをすゝをゝをゝをゝをゝをのをゝをゝのを
やゝををゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝを

ゆくすえうしなりけるものの（内府）ものいうこと幼
きをりおとものあがるなどさいうことはやの
に沸らのぶるなとさこと沸（大宮河）ひめ君をひさしく
みることつらかりしかはうさまさりてまちやくて
なえるよりはいとう（内府河）ひつうのあれをやまいりきん
ひつうのおもりきうて（各帝ニケカサレ名ロ指トシ）ら
くるひ沸のうをんかぶくそよくいもくりち沸ん
まぶかはなりけるとうたるよりあてもひのこうん
ほくされはりけるなとる紙ひとけ（各内ノ心トケヌシ）ぶをもひをえ
たりけきしてのあへきひうく（大宮ヤノ）ちうもやし
ぬんぶをけはけぶうりうつて（近ノイキニテイ）ぬてうなうひとう
ポ調

きうをはりてりくまつひはりあとうれくやし
ゆてうひはみやいぐうれあやいひ（大宮ヤ河）ひとめやいひ
ぬこうてさぶるやうやうれとうの沸くぬそれ（内河）
うんえんぶうしまこうまはりいうぐ西沸をはきん
ときこのふとや

十七枚

国立国会図書館

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』 請求記号

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『[源氏物語] 54巻』 請求記号

ガラス使用